

職場でリストラにあい、日雇いで生活費を賄う葛木太一(48)。そんな葛木は、怪しい投資話にのるために、急遽 100 万円が必要だった。なんとかして 100 万円を手にするために、朝から晩まで駆け回り、闇金からお金をかき集めた。100 万円を手にした帰り道、総武線の最終電車に乗り込んだ葛木だが、疲労に満ちた体が、電車の暖かさに誘惑され、居眠りをしてしまう。目を覚ますと、カバンの中にあっちははずの、封筒に入った 100 万円が無くなっている。車内には葛木を含めた 6 人の乗客がいる。

朝から電車に乗っているという、警察を過度に恐れる不審な男、伊藤(51)。なぜか大金の入った封筒を持つ、ブランド物ばかりを身につけた女、佐伯(23)。同棲中の彼氏と喧嘩をして、家を飛び出してきた女、庵野(26)。日本語がわからないと嘘をつく、大きなキャリアケースを抱えるアメリカ人観光客、ジョナサン(31)。頭の悪そうな見た目に反して、国立大学の赤本を持つ女子高生、宮野(18)。

「俺の 100 万円、取りましたよね？」

100 万円が無くなったことで、気が動転する葛木。車内で騒ぎ出し、犯人探しを始める。葛木の真横に座る伊藤、葛木の目の前に立つ宮野。葛木の正面に座る佐伯。佐伯のひとつ隣に座るジョナサン。葛木座席側のドアにもたれかかる庵野。「全員カバンの中を見せろ」という葛木に対し、乗客全員が抵抗を見せる。だが、カバンの中身を見せない限り、疑いは晴れない。渋々カバンの中を見せる 5 人の乗客、誰も 100 万円は持っていなかった。ただし、佐伯を除いては。

「そんな大金おかしいだろ。その 100 万円、俺のだろ」そう捲し立てる葛木に対し、佐伯は「愛人からもらったお金だ」と反論し、その場で愛人に電話し、潔白を証明する。その後、伊藤とジョナサンのカバンの中から、白い封筒が見つかるが、どちらも中身は 100 万円ではなかった。そしてついには「全員がグルなんじゃないか」と疑い出す葛木。

「おじさん、お金が欲しいからって一か八かの賭けにでたんじゃないの？」騒ぐ葛木に対して、宮野は葛木が真の犯人なのではないかと疑いをかける。そんな中で、葛木が 100 万を入れていたであろう白い封筒が、庵野の足元に落ちていることに、宮野が気付く。葛木はますます焦り、佐伯の持っている 100 万円を自分に譲るようせがむ。佐伯は、そんな葛木を横目に、ふと封筒の中の百万円に目を落とすと、それは 100 万円ではなく、、、。